

富山市と金沢市の観光客・ビジネス客の訪問目的比較

富山市	観光	比較的静かで落ち着いた雰囲気があり、リラックスしたい観光客に向いている
	ビジネス	機械や化学工業が発展しているため、地元企業との連携や取引を目的とした製造業関連のビジネスでの出張が主流。
金沢市	観光	兼六園や金沢城、ひがし茶屋街など、歴史的な観光スポットが多く文化や歴史に興味がある観光客に人気がある。
	ビジネス	観光関連のビジネスや文化イベント、商業やサービス業分野でのビジネス出張が多い

両市の主な観光・ビジネスの訪問目的を比較すると相反する街づくりをしてきたものとする。外部要因として金沢市は戦災を免れ歴史的建造物が多く残った。内部要因としては、加賀百万石の城下町としてのブランディング構築に古くから取り組んでいる。これらを更に際立たせているのは、ひがし茶屋街・近江町市場・兼六園周辺に見られる個人事業主及び地元中小企業の経営する金沢の独自性を活かした多数の飲食店・土産販売店などがある。また、金沢市では**青空駐車場及びコインパーキング**の徹底した設置禁止規制をし、空き地には**小規模公園を設置し景観の向上を図っている**。その成果として街全体が城下町としてテーマパーク化しており、歩いているだけ楽しい空間を提供している。これらが相まって国内はもとよりインバウンド客にも人気があり国内でも有数の観光都市になっているものと理解している。ビジネス面の来訪者では富山市では、製造業関連が多いが、金沢市は商業・サービス面が多くなっている。これは、先述したように観光都市としての政策を長年続けてきた成果及び北陸3県の中央に位置する地政学的要因だと考えている。

これらを踏まえて富山市をSWOT分析する

強み	<ol style="list-style-type: none"> 立山連峰や黒部峡谷などの玄関口であり、豊かな自然環境に恵まれ、新鮮な魚介類と豊かな食文化がある。 路面電車やバスのネットワークが整備されており、車に依存せずに生活できる環境が整っている。 ガラス工芸や薬の街としての伝統がありインバウンドや観光客に人気の高い城下町としての歴史がある。
弱み	<ol style="list-style-type: none"> 他の地方都市と同様に、人口減少と高齢化が進んでおり、労働力の確保や地域経済の活性化が課題となっている。 経済は製造業に依存している部分が多く、経済の多様性が不足しており、特定の産業が不振になると地域経済全体に影響が及ぶリスクがある。 この為、中心市街地にも多くの青空駐車車が点在している。 若者が進学や就職のために都市部へ流出する傾向があり、地域の将来を担う人材の確保が課題になっている。
機会	<ol style="list-style-type: none"> 富山市は立山連峰や市内を流れる松川、いたち川などの自然景観が豊かで城下町としての歴史がある。これを活かした観光産業の拡大が期待される。 富山市は製造業が盛んであり、これを基盤にしてテクノロジーやイノベーションを推進することができ、特にスマートシティの取り組みや、AI・IoT技術の導入が発展の鍵となる。 富山市はガラス工芸や薬の街としての伝統があり、これらの地域資源を活用し、地元産業のブランド化や新しい製品開発を進めることで、経済の多様化が図れる。 公共交通機関の充実やインフラ整備を進めることで、住みやすい環境を提供し、人口流出を防ぐことができる。 インバウンドに人気の高い高山市・金沢市の中継ポイントとしてのインバウンド需要の取り込みを新しい観光資源の開発で、できる可能性がある。
脅威	<ol style="list-style-type: none"> 人口減少と高齢化：富山市は少子高齢化が進んでおり、若者の流出が続いており、労働力の確保や地域経済の活性化が難しくなっている。 近隣の金沢市や新潟市などの都市と競争する中で、富山市は人口や経済規模で劣勢に立たされており、企業誘致や観光客の増加が難しくなっている。 市街地が広がりすぎているため、都市管理コストの増加やサービスの低下が問題となっている。 既存の産業を再生し、地域の活力を高める新たな産業を創造できなければ衰退する。

スワット分析による課題解決点

これらを鑑みると、県庁周辺エリアを城址公園と一体感を持たせ、城下町として認知できるものに再整備することがまずは先決だと考える。したがって、NHK跡地・県庁敷地・県民会館敷地内の青空駐車場は下記の図のように全て廃止し、城址を感じさせる、公園とすることで城下町としての風格を持たせ集客力を高める必要がある。県庁周辺エリアから青空駐車場をなくし緑の木々が生い茂る、城下町を感じさせる公園とし、観光資源の再構築や文化の発信、インフラの整備などに力を入れる必要がある。城址大通りに面する県民会館の青空駐車場は景観上悪く品格に欠ける。また、駐車スペースは歩道と共有して設置されており、雨天や暗がり時に歩行者と車が接触する可能性を秘めており、歩いて暮らせる街を標榜する富山市とは不整合でもある。県庁敷地内の青空駐車場も同様である。上図に示す緑色は全て駐車場を公園に変更することを提案している。公園は城址公園と一体化した城址を連想させるイメージを与えるもの

県庁周辺全体イメージ図



とした。全国的にも城下町は、城址周辺整備に力を入れている。近隣の市町村を見れば金沢は21世紀美術館の設置や旧石川県庁を都市公園に作り替えている。福井市は県庁を城址に設置しているが、周辺の空き地利用として公園を設置しイベントなどを多く開催している。大野城、丸岡城周辺も同様である。なぜなら、他県からの観光客やインバウンドの必ずと言っていい訪問先に、綺麗に整備された城址が上げられる為だ。これらを鑑みると富山市は観光客及びインバウンドに対し先に挙げた北陸を代表する城下町としての整備はされていない。したがって、富山市は観光客などから、得られる経済効果である飲食・宿泊・土産物の収益を損失している。先述したように金沢市は古くからこのことに気づいており、官民上げて取り組んだ結果として個人商店・小規模事業者が様々な小売店・飲食店を開業しテーマパーク化している。これらにより観光地としての経済的パフォーマンスを最大限に発揮し、名だたる観光地としてのポジションを勝ち取り金沢の代表的産業基盤になっている。富山県の産業構造は多様性に欠け、若い世代に魅力的な産業は少ない。若者が定着する街としての新しい産業の育成が必要である。また、インバウンドで溢れる日本は観光産業の市場規模拡大が今後も継続すると予想している。低コストで始められる、**県庁・県民会館にある青空駐車及びNHK跡地を、公園に置き換える事で街の景観**

を大きく変え緑溢れるリゾートを感じさせる都市の最初の一步を踏みだす大きな意義があると考えている。また、これらのパフォーマンスを最大限に活かす為に、以下5つの取り組みも並行して行いたい。

1. 県民会館内の空きスペースを北前船と薬種商の歴史資料館にする

富山の薬種商と北前船には深い関係があり、江戸時代から明治時代にかけて、北前船は日本海を經由して大阪と北海道を結び、様々な商品を運んだ。その中には富山の薬も含まれていた。などの紹介をし、北前船と薬種商の歴史及び北前船の模型を展示する



2.富山市役所展望台との連携による北アルプスの展望を楽しむ

富山市役所展望台からは、地上約70メートルの高さから360度のパノラマビューを楽しむことができる。晴れた日には、雄大な立山連峰が一望でき、特に冬の雪景色は圧巻であり。北側には富山湾が広がり、海と空の美しいコントラストを楽しむことができる。このような近隣施設と連携を強化することで富山ならではの3000m級の山々を鮮明に見る事が出来るスポットとし県庁周辺再整備の集客力向上効果を図る。これにより、リゾート感溢れる山岳観光拠点都市としての確固たるポジショニングを得る。



隣接する富山市役所展望台も巻き込み県庁周辺エリアの観光資源に厚みを持たせる。

3.城址公園内松川べりの有効活用（小規模な博多中州の台街を目指す）

キッチンカーやテントハウスなどのスペースとして開放する

1. 松川べりは桜の名所として知られており、花見シーズンには、多くの観光客・地元民が訪れる。花見シーズン以外にもキッチンカー、テントハウスを配置することを定着させる事で、新たな楽しい空間を提供し、観光客及び県民の滞在時間を延ばすことができると考える。
2. 地元の食材を使った料理の提供をキッチンカーで行う事で、地域の特産品をPRし、地元経済の活性化に寄与できる。また、地元の飲食業者及び**起業希望者の出店**を施しテストマーケティングとして利用してもらう事で、**新たなビジネスチャンスを提供**できる。
3. 富山城址公園ではさまざまなイベントが開催されており、これらのイベントと連携することで、さらに多くの人々を引きつけることができる。例えば、音楽フェスティバルやアートイベントなどと組み合わせると効果的だと考える。

これらにより、城址公園松川べりの集客力向上を図る。また、キッチンカー、テントハウスは移動可能であり、必要に応じて配置を変更できるため、景観を損なわずに設置することができる。デザイン性の高いキッチンカー、テントハウスを導入することで、観光地としての魅力を高めることが可能にもなる。このことから、観光客や地元住民にとって手軽に食事や飲み物を楽しめる**水辺空間の魅力**が向上し、ゆったりとした思い思いの時間を過ごせる空間に変貌させる。最終的には博多中州にある屋台街に類似したエリアを作りたい。博多の屋台街は夜の集客力が高い理由としては周辺が歓楽街になっている為である。富山の場合も類似しており、駅前～桜木町～総曲輪の真ん中に位置している事から、仕掛け方法によっては集客力の高いエリアになるものと確信している。また、全国的にも城址の真横に川が流れている地形は珍く観光客やインバウンドへのアピールポイントになるものもと確信している。

城址公園松川べりの利用 起業チャレンジ広場



四季折々の表情を見せる松川べり（城址公園側）を、起業チャレンジ広場として活用し店舗を出店する前の、市場の反応やニーズを再確認しブラッシュアップする。



4.旧 NHK 跡地利用（城址を感じさせる公園内に小規模なガラス張りピラミッド型施設を建てる）

観光ゾーン

富山に訪れる観光客に対し、食で有名なホタルイカ・白エビの泳いでいる水槽の設置があれば、環水公園やガラス美術館と並ぶ集客力のある施設となると考える。シーズンオフ時はホタルイカ・白エビのデジタル表示及びVR体験などを提供する。また、観光案内所を城址公園から移設し、岩瀬エリア・総曲輪周辺（ガラス美術館含む）・環水公園・八尾・立山黒部アルペンルート・五箇山・白川郷・飛騨高山・金沢なども案内し、これらのエリア観光の日帰り圏としての拠点性をアピールし観光客の宿泊者数を増やし経済効果を上げたい。また、スタバなどのカフェの併設や名産品なども販売する。

地域住民交流ゾーン「小さく間仕切りのない開放的なスペース」

特定の課題に対し市民及び官民一体となった将来の富山市及び富山県のあるべき姿をディスカッションできるスペースの提供を行う。スペースは小規模なものでいい。誰でも気軽に参加できる間仕切りのない開放的な空間としたい。議題は①レジリエンスの強化「自然災害や社会的危機に対する耐性を高める」、②包摂的な都市計画「すべての住民が安全で快適に暮らせるよう、公共交通機関の整備や緑地の拡充、参加型のまちづくりの推進を話し合う」、③経済的持続可能性「地域経済の活性化と雇用創出を図り、持続可能な経済成長促進策を話し合う」④社会的持続可能性「教育、医療、福祉などの基本的サービスへのアクセスを確保し、社会的な公平性を実現について話し合う」。⑤起業支援「新たに事業を立上げ富山の未来を支える起業家を側面から支える」これは、新たな産業を創出させ多様性と活力ある富山県を牽引する新世代の原動力とし、夢と新たな希望を量産できるものとした。よくあるシェアオフィスにアドバイザーがいるような施設ではなく、実践的な専門家が多種多様な側面から実利のある支援を提供する場所としたい。例えば認定経営革新等支援機関に運営を任せることも検討するべきである。これらを総合的に取り入れ、持続可能な都市づくりが実現する事を目的とした市民と意見交換ができるスペースを提供する。

NHK 跡地利用



空を覆う木々と城址を感じさせる公園



北アルプス・立山連峰イメージのガラス張りピラミッド



ホタルイカ・白エビの展示「シーズンオフ時は映像のデジタル表示・VR体験」

住民交流 & レンタルスペース

カフェ & 観光案内所・土産販売



NHK跡地

ピラミッド型建築物は小さなものでいい

5. 富山県庁のクラシカルな雰囲気を最大限に活かし周辺との調和を図り独自の景観を作る

富山県庁舎本館は 1935 年に竣工され、アールデコ様式のデザインが特徴であり、外観にはレリーフやボーダータイルが施されており、歴史を感じさせる重厚なディテールが随所に見られる。このようなクラシカルで重厚な雰囲気は、富山県庁舎の魅力の一つであり、富山空襲を受けながらも現存している富山の財産でもある。したがって、**県庁敷地内にある駐車場を、すべて公園に作り変えることで富山県庁の景観イメージを大きく変え観光客にとって一見の価値のあるエリアとする。**

以上 5 つの施策を実行することで、環水公園に並ぶ集客力を持つエリアになるものと考えている。また、城址公園から移設した観光案内所によって、観光客に人気のあるガラス美術館への誘導により総曲輪周辺へも波及効果がある。今後建設される中央通り入口のスケート場・商業施設併設の高層マンションへの人流誘導にも役立つものと考えている。また、駅北エリアの観光案内も実地する事により環水公園やソーラーポートやライトレールを使い岩瀬エリアへの観光客総客の流れを作りたい。この、流れを構築できれば、富山市が経済的生産性の高いリゾートの様な山岳観光都市として観光産業に於ける経済的効果を向上させる源泉になる。**何度も重複するが、中心市街地の青空駐車場は街の活性化を阻害し、これらを築き上げる最大の障害になる。**

また、近年では中心市街地のマンション建設が加速度的に増えている。県庁周辺エリアは街中マンション住まいの市民が散歩を楽しめる丁度いい距離感にあり、県庁周辺エリアの空を覆い隠す様な緑生い茂る公園があれば日常的に訪れるスポットになるものと確信している。富山市はこれまで駅周辺・総曲輪エリアで再開発事業を行ってきており一定の成果を上げている。これらのエリアを繋ぐ事を目的とし都市のポテンシャルを高める事になる。賑やかになる事で観光産業の育成も図れ、飲食業、特産品製造などの事業を行う若者～シニアまでの多くの起業家を輩出したい。また、忘れがちとなっている、江戸時代にたくさんの舟で賑わった木町の浜（旧神通川〈現・松川〉）といたち川の合流点付近）にもスポットを当てたい。江戸時代、松川（当時は神通川）といたち川の合流点付近は、『木町の浜』と呼ばれ、下流の東岩瀬（加賀藩領）までの 2 里（約 8 キロメートル）は、白帆を張った 40 石積の舟が絶えず航行していた。城址の近くにこのような歴史的な浜がある事もアピールしたい。また、写真右側を流れる、いたち川は中心市街地に流れながらも水面をのぞき込めば多くの鮎が観察できる。このことから富山市の自然環境は保たれている証明になっていると考えており全国的にアピールする大きなポイントとして木町の浜と、鮎を、移設した観光案内所で観光客に案内したい。



夜間も環水公園・駅前・桜木町・総曲輪周辺の間接点として拠点機能を果たす。

実現する為には、県庁周辺エリアを、美しくライトアップをする必要がある。環水公園に夕方～夜間訪れる観光客は「綺麗」と言葉にだす人々が非常に多く見られる。コンセプトにもしている第二の環水公園にするには、最も重要なポイントにも掲げている。NHK 跡地・県庁・噴水公園・県民会館・松川べりを一体感あるライトアップが集客力向上を図るものとする。それにより夕方～夜間にかけての駅前・総曲輪・桜木町の飲食店利用者は、県庁周辺エリアを周遊し富山市の重要な結節機能を持つと同時に経済効果を駅前～総曲輪～桜木町へと循環、波及する事になるものものとする。



想定される障害

富山県民は自動車移動が多い。したがって、これまで県庁へ行く場合には県庁の駐車場に車を止める事が常識だと考える。県民会館利用もしかりである。全国の県庁所在地の中で繁栄している又は綺麗、美しい又は住んでみたいと思わせる都市の中心部に青空駐車はない。青空駐車は都市の魅力を大幅に低下させるだけではなく経済的生産性及びヒートアイランド現象（金沢よりも暑い）及び車との共存のため高齢者や子供の人身事故の確率が高い。また、地球温暖化対策推進計画：2023 年 3 月に「富山市地球温暖化対策推進計画」を策定し、具体的な温室効果ガス削減目標や施策を設定しており、駐車場を廃止することにより公共交通機関利用促進を図り目標達成に近づける施策の一つとして活用したい。

最後に

富山市が目指している駅周辺～総曲輪軸の活性化には、旧第一ホテル跡地周辺の今後の在り方にも早急に取り組まなければならない。このエリアにも青空駐車が乱立しており街の美観を大きく損なっている。富山城址の前に大きな青空駐車と潰れたホテルがある事は観光客にも県民にも悪い印象しか与えない。これらを一体的に捉えた再整備こそが未来の富山市に重要であり、これまで述べてきた新しい産業の創出にも大きく関与する。また、若者が定着する街も目指さなければならないことにスピード感を持って検討してもらいたい。私の考え方では、先述した事と同様に**第一ホテル跡地周辺は公園にするだけで十分な集客効果があるもの**と考えている。このエリアは掘り返せば城跡の遺跡が出る。それに準じて城跡の公園にすればいいだけだと考えている。お隣の金沢は金沢城・兼六園・21 世紀美術館周辺の空き地を基本的に公園に変えた。

このことにより都市としての美観を確保し、箱ものに頼らずコストを押さえ集客力を高めた城下町としての手法を見習いたい。

整理番号 8

